

「金栗四三史からみたオリンピックと箱根駅伝」展

佐竹 弘靖 (ネットワーク情報学部教授)、齋藤 実 (文学部教授)

期日：2019年12月17日～2020年2月28日

会場：生田キャンパス9号館1階ロビー

主催：スポーツ研究所

協力：玉名市、専修大学図書館、

専修大学体育会陸上競技部

金栗四三(1891-1983)は「マラソンの父」と呼ばれ、いまなおその功績が讃えられている。東京オリンピック・パラリンピックを翌年に控えた今年、NHKの大河ドラマ「いだてん」の主人公として取り上げられ、さらにその功績が注目されるようになった。金栗は明治24年に熊本県玉名郡春富村(現・和水町)生まれ、東京高等師範学校進学後、校長だった嘉納治五郎の勧めで本格的にマラソンを始めた。国内予選で世界記録を上回るタイムを出し、ストックホルムオリンピックに出場するも、暑さと足の痛みのため途中棄権。その後、シューズの改良や暑さ対策など研究を重ね、2回オリンピックに出場。選手として引退後は、マラソン選手育成のために箱根駅伝を発案するなど、日本のスポーツ振興に尽力した。

スポーツ研究所スポーツ文化部門では、金栗の功績について研究テーマの一つとしており、昨年度は研究所第3回研究会において「金栗四三と箱根駅伝—そして専修大学陸上部—」をテーマに佐竹弘靖スポーツ研究所長が研究発表を行なっている。また、平成30年度は、専修大学・専修大学玉名高等学校社会知性フォーラムにおいて「金栗四三と箱根駅伝」のタイトルで、同じく佐竹所長が講師として登壇し、スポーツ文化の普及を行った。

今回、主催した展示は、そのフォーラムの



際に同時に講演をされた玉名市役所金栗四三PR推進室推進専門官の徳永慎二氏とのご縁から、金栗四三に関する展示パネルの貸与をうけることとなったこととなり、金栗の功績を功績と合わせ、開催の迫った箱根駅伝と東京オリンピック・パラリンピックについて広く紹介し、本学におけるそれぞれの気運を醸成することを目的として企画を立案した。開催にあたり、玉名市ほか、専修大学図書館、体育会陸上競技部に協力をいただき、金栗の歩みに重ねてオリンピックと箱根駅伝の歴史についてパネルを使って紹介するとともに、陸上競技部に宛てた金栗直筆の色紙、また図書館所蔵の関連書籍などを多数展示した。

本企画は9号館1階のロビーに展示され、専修大学ホームページやニュース専修でも取り上げられ、多くの学生、教職員、本学の訪問者が展示に足を止める姿がみられた。展示企画はスポーツ研究所としては初めての試みであったが、概ね好評を得ることができた。今後もこのような形でのスポーツ文化情報の普及方法の一つとして活用していきたい。

